

平成30年度飯能市水道事業会計当初予算（案）概要

1 基本的な考え方

料金改定や企業立地等により平成27年度以降給水収益が回復したところであるが、給水人口の減少傾向や節水機器の普及などにより、給水収益の減少が見込まれる一方、施設の更新需要の増加などにより事業経営は依然として厳しい状態が続いていることから、なお一層の経営努力による経費節減を図った予算編成としたところである。

また、平成30年度は、「飯能市水道ビジョン（経営戦略プラン）」と、同計画を基本とする「飯能市水道事業中期経営計画（前期）」の3年度目となる。ビジョンで掲げた、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給していくため、経営基盤の強化と水道施設の適正な維持管理に努め、市民から信頼される水道を目指し、水道施設の計画的な整備・維持管理を着実に推進し、安定給水に努めるものとする。

2 予算概要

(1) 給水収益見込と業務の予定量

1 給水収益

平成29年度の給水収益実績をもとに、社会経済情勢等を考慮して見込んだ。

〔上水〕 14億2,333万2千円（平成29年度当初予算対比 $\Delta 0.6\%$ ）

〔簡水〕 3,844万8千円（ " $\Delta 3.3\%$ ）

2 業務の予定量

・給水戸数	36,000戸	（前年度比較	100戸）
・年間総配水量	9,916,000 m^3	（前年度比較	$\Delta 61,300\text{m}^3$ ）
・1日平均配水量	27,166 m^3	（前年度比較	$\Delta 169\text{m}^3$ ）

（参考）飯能大河原工業団地の影響（4月～11月）

・平成28年度	22社	使用水量：	67,526 m^3	金額：	18,753,840円
・平成29年度	25社	使用水量：	70,271 m^3	金額：	19,536,477円
（前年度比 水量：+4.1% 水道料金：+4.2%）					

(2) 企業債の借入による財源の確保

平成30年度においては、施設整備に要する財源として企業債の借入を予定している。

借入予定額 4億円

〔	平成29年度末起債残高見込額	36億8,655万円	〕
	前年度比	2億1,892万円の増	

※平成30年度末起債残高見込額 38億7,040万円

(3) 有収率向上対策事業

漏水調査委託の年度ごとの対象エリアを拡大し、引き続き、市内を一巡し、漏水の早期発見と漏水量の抑制に努めるとともに、宅内漏水修理における市の費用負担範囲を拡大し、有収率の向上を図る。

- ・平成30年度 原市場地区ほか 140km
- ・宅内等漏水修繕費 600万円

(4) 漏水等修繕管理業務の委託

配水管等の漏水に対し、迅速かつ的確に対応するため、漏水等修繕業務を飯能市水道事業協同組合に平成30年度から24時間の業務を委託。

※平成29年度は準備期間として、平成29年4月から9月までの上半期は、従来どおり、水道工務課職員が対応し、漏水が発生したときに水道事業協同組合が同行し、業務全般の引き継ぎを実施。

※平成29年10月から平成30年3月末までの下半期は、夜間を除く、日中の8時30分から17時15分までの間の漏水について、水道事業協同組合で対応し、夜間は従来どおり、水道工務課職員が対応。

(5) 主な建設改良事業

- ① 老朽管布設替事業 2億7,885万6千円
〔旧市街地〕 東町地内配水管布設工事
〔漏水懸念箇所〕 荻生地内配水管布設工事、平松地内配水管布設工事、
〔導送水管布設替〕 小岩井地内導送水管布設工事
- ② 配水管網整備事業 2億466万円
〔土地区画整理関連〕 笠縫、岩沢北部、岩沢南部土地区画整理地内配水管布設工事
〔下水道関連〕 笠縫、岩沢北部・岩沢南部土地区画整理地内配水管布設工事
〔道路工事関連〕 双柳地内配水管布設工事
- ③ 浄水施設等再構築事業 4億1,366万7千円
飯能地内送配水管布設工事 ※平成30・31年度継続事業
県水受水場電気設備等改修工事 ※平成29・30年度継続事業
大河原地内送配水管布設工事
- ④ 取水・浄水・配水施設等整備事業 2億4,736万6千円
小岩井浄水場沈殿池汚泥掻寄機更新工事 ※平成29・30年度継続事業
小岩井浄水場内送水ポンプ場送水ポンプ盤更新工事
坂石配水場ほか配水ポンプ等交換工事
- ⑤ 基幹施設耐震化事業 7,956万円
小岩井浄水場耐震補強工事 ※平成29・30年度継続事業